

すなお

令和7年9月号

発行所 天理教瀬戸路分教会

〒794-0007 今治市近見町4-5-10

URL <https://www.tenrikyo-setoji.net/>

☎ 0898-23-5004 責任者 二宮英治

発行日 2025.9.16 通巻 No.782



会 長

『147 本当のたすかり』

大和国倉橋村の山本与平妻いさ（当時40才）は、明治15年、ふしぎなたすけを頂いて、足腰がブキブキと音を立てて立ち上がり、年来の足の悩みをすっきり御守護頂いた。

が、そのあと手が少しふるえて、なかなかよくなる。少しのことではあったが、当人はこれを苦にしていた。それで明治17年夏、おちばへ帰り、教祖にお目にかかって、そのふるえる手を出して「お息をかけて頂きとうございます。」と、願った。すると教祖は、「息をかけるは、いと易い事やが、あんたは、足を救けて頂いたのやから、手の少しふるえるぐらいは、何の差し支えはしない。すっきり救けてもらうよりは、少しぐらい残っている方が、前生のいんねんもよく悟れるし、いつまでも忘れなくて、それが本当のたすかりやで。人、皆、すっきり救かる事ばかり願うが、真実救かる理が大事やで。息をかける代わりに、この本を貸してやろ。これを写してもろて、たえず読むのやで。」

と、お諭し下されて、おふでさき17号全冊をお貸し下された。この時以来、手のふるえは、一寸も苦にならないようになった。そして生家の父に写してもらったおふでさきを、生涯、いつも読ませて頂いていた。そして、誰を見ても、熱心ににをいをかけさせて頂き、89才まで長生きさせて頂いた。

私は3年ほど前の転落事故後、その箇所痛みはないものの夕方になると身体全体に疲れが出てきます。怪我の後遺症だと思います。それで（どうしたら、この疲れが無くなるだろう、、、）と日々体操をしたり、筋トレをしたりといろいろな努力と共に思案を重ねていました。そうして過ごしている中、今月の初めに、この上記の逸話篇が浮かびました。

以前から申ししていたように、その事故によって命が無かったかもしれませんし、半身不随等の大きな後遺症が残っても不思議ではありません。それが車の運転もさせてもらい、種々用事をさせてもらえるようになりながら（もう少し、、、）と願うのは、逸話篇の中のいささんと同じだと気づかせてもらいました。

本来ならば命ない中を救けていただいたのですから、この腰のだるさや疲れを感じるたび生かされる喜びを心に感じ、言葉に出して通りたいと思います。これが私の【本当のたすかり】だと信じます。

我々は目に見えることから様々なことを受け止め感じます。それももちろん大切な事ですが、その奥に込められる親神様、教祖の思いや願いを悟り通って行きたいと思います。これを分からせてもらおうと本当にありがたいことです。



決して当たり前でないこと

二宮 真悟

奈良で植木の仕事を始めて、今月で1年が経とうとしています。有難いことに、方方からお声をかけて頂いたり、協力業者さんの繋がりのおかげもあって1日たりとも暇な時間がなく過ごすことが出来ました。

また、前職では1年目に大きな事故を起こしたことがありましたので、事故怪我なく1年を終えられることも合わせて有難いことだなと思います。しかしながら最近は、仕事が詰まりに詰まって休む間がないほどになってきました。仕事柄上、納期が伴う事も多くさらにこの暑さも相まって、体の疲労は相当なものです。

なんとも仕事の受注までは思い通りにいかないのが難しい所ではありますが、有り難さを通り越して全てが当たり前になってくると、私の場合人や物に対してキツく当たるようになってきます。こうなってくると仕事なんてせず寝てる方がマシだなと思います。

仕事を出来ることが当たり前にならないように、時には断ることも覚え、感謝の心を忘れず務めていきたいです。

《教会ニュース》

全教一斉にをいがけデー

今月28日から30日までの3日間は全教一斉にをいがけデーです。28日、29日は教会長路傍公演の開催日ということで今治支部ではつとめられます。教会では30日の最終日に個別訪問を希望者と共に回らせれたいと思います。また、チラシを各家庭に1枚ずつ入れておきます。どんな形でも結構ですので、にをいをかけて下さい。

天龍講団参

来月26日には、天龍講（郡山大教会関連の直属教会の集まり）の団参がつとめられます。それぞれがおちばへ心を繋いでお帰り下さい。宿泊・食事に関しては教会を通じての申し込みになりますので、決まり次第3日前までに連絡をください。



編集後記

最近、朝晩の涼しさを感じる季節になりましたが、まだまだ残暑の厳しい時期でもありますね。日中は夏の名残を感じる暑さが続き、朝晩との温度差に注意が必要です。そんな中でも、秋の気配を探しながら、過ごしやすい朝晩を楽しむ工夫をしてみましょう。一日の疲れを癒すために、涼しい夜にはお気に入りの飲み物と共にリラックスタイムを満喫するのも良いですね。

(編集者K)